



青美会趣意書 (抜粋)

青美会は、絵画制作を純粋な芸術活動としてとらえ、制作を通して自己に迫る生涯の活動として考え、
 展覧会を永続的に開催していきける人々で構成される組織である。出品者は、時代を問わず、通俗的表現
 を目的としない、歪流をつくらない、といった制作態度が希求される。友達仲間感覚を超えた、目的意
 識をもった出品者で構成される。

■青美会のあゆみ

- 1996年(平成8年) 青美会創立。
 1996年(平成8年) 「第1回・青美展」を稲沢市荻須記念美術館にて開催(以後7回展まで同所開催)。
 青美展図録発行(以後毎年発行)
 2003年(平成15年) 「第8回・青美展」を東桜会館ギャラリーにて開催(以後毎年同所開催)。
 2004年(平成16年) 同人制を運営開始。
 2009年(平成21年) 「青美会同人展2009」開催(愛知県美術館ギャラリー)。
 2010年(平成22年) 「第15回記念展」開催(東桜会館ギャラリー)
 2010年(平成22年) 会報・第1号を発行(以後毎年発行)
 2011年(平成23年) 「青美会同人展2011」開催(愛知県美術館ギャラリー)。
 2012年(平成24年) 「青美会同人展2012」開催(愛知県美術館ギャラリー)。中日新聞共催。
 2014年(平成26年) 「青美会同人展2014」開催(愛知県美術館ギャラリー)。中日新聞共催。
 2015年(平成27年) 「第20回記念展」開催(東桜会館ギャラリー)。青美会・ロゴマーク制定。
 2015年(平成27年) 「青美会同人展2015」開催(愛知県美術館ギャラリー)。中日新聞共催。
 ■青美会組織(2017年2月14日現在)(同人総数 64名)

●テーマ「私と青美会」各人の絵に対する想いを語って頂きました。

「一期一絵」西尾 翼(やさしい水彩技法)

「一期一絵」の旗印(幹事がネーミング)のもと毎年、青美展に集まってくれる朋輩がいる。
 東海三県に在住する学友だ。「一枚」の小品のため駆けつけ、応援してくれる。
 「お前がいるから集える」「お前が絵を描いているから自慢できる」とヨシヨシもしてくれる。うれしい仲間達だ。
 これも大きな、絵を続けられる原動力になっています。
 この10余名+乗名の仲間数名が、鑑賞者目標数100名の一助になっており、責任は重い。
 定年後に初めて絵筆をとって10数年、真っ白な自分にとし、色がついて来たことを実感しています。
 画法、モチーフは夫々、異なるが作画の苦しみ、楽しみを共有する先輩、仲間がいることは有難い。
 絵だけではなく、その生き方、態度が人生の指標になっています。最近では健康談義にも花が咲き、参考になるこ
 と大です。今後も、横の糸は筋トシ、縦の糸は作画。「自分の絵」を確立するため、もがき、苦しんでいきたい。

「作品L」(F10)

「私と青美会」加藤 瑠美(トータク)

思えば、十数年前に知人を介して絵画教室のご縁を頂き、それ以来、平井先生のご指導を仰いでいます。
 十数年と一言で活字にするのは容易いのですが、例えるならば、ヨチヨチ歩きの子供ちゃん、中学位の年令となっ
 ている年数です。
 ある感慨と同時に、自身の不甲斐無さを覚えます。歳月を重ね、キャンパスに絵の具を重ね、時には何度でも塗りつ
 ぶし、進退の繰り返しの中、絵と対峙する事の意味と意義を問っています。
 しかし、俗物的な根柢が、頭をもたげて、思わず立ち止り、迷い道クネクネです。
 開き直る事もしばしばですが、こんな時に平井先生はじめ青美会のお仲間皆さんの存在が、飽き性の私にブレーキ
 と元氣と居場所を与えて下さいます。同じベクトルをもった同志の皆さんとの関わりは、とても有難いものです。

「東風解凍」(F10)

「悦びを求めて」布川 義行(楽しい風景A)

思い始めて6年、「成長している自分」より「成長できないつらさ」を感じるこの頃ですが、一方で絵を描く悦びを
 感じようとしている自分も居ます。あらゆる分野での技術革新、特定の分野では脳に迫る・脳を越えようとするとい
 っている現在、良き芸術(絵画)に接した時の感動は人間が本来有する根源的なものの1つです。
 その芸術を創り出す脳は技術革新の領域外です。芸術は元来「多様性」と「普遍性」を持ち、技術重視の中で見失
 いがち人間回復をも促す役割を担っています。
 全く絵の経験がなかった私が青美会の皆さんと「共有する価値観」で純粋な絵画表現に取り組んでいることは、こ
 の年令で予想だにしていなかった新たな世界を手に入れたような喜びを感じています。
 良き指導者にめぐり合い、又ヘトヘトになりながらも科学だけでは解き明かすことのできない何か「どこにあるの」
 ・「どこまで行けば良いの」「その限界はもっと先だ」と絵画に力強く取り組んでおられる青美会諸先輩の姿は私
 の支えであり、描くエネルギーを載せてくれます。
 自分なりの絵画表現への到達は程遠くとも「楽しければ良い」から辛くとも「その一歩先へ」を目指し、これから
 も永く描き続けたいと思っています。

「葉野菜」(F8)

「心に残る日」會田 暁美(洋画研究)

「楽しい風景」教室に入って間もなくの頃、鶴舞公園であじさいの絵を描いた。
 暗がりのあじさいを、縦ラインにの地にはめ込んで。その時「いいね」と言われて、上手でなくても、他の見方が
 あることに嬉しくなった。次は、退職の年。初めて大きな絵を描いた時のこと。ある気配をよく感じていた神社
 の絵。冬の時期で、集中しているとあつという間に外の間に囲まれた。すると絵の中からただようものが、一層様
 々な形に見え息苦しくなったことがある。これらの体験を通して、絵は自分を見つめ、心の隙間を埋め、考えを深
 めるものであることに改めて気づかされた。こうして目標に向かえるのも青美会(先生)との出会いのお陰です。

「躍動」(F50)

「私と青美会」清水 なを子(トータク)

全く絵を描いたことがない私が、絵を見てこんなふうを描けたらいいなあ〜と軽い気持ちで習い始めました。
 それから早、数年、青美会の同人になりました。初めは習い事の一つとして、のんびりとマイペースで青美展が有
 れば出来ている作品を展示するというふうでした。家族や仕事のこともあり休むことが多かったです。
 気が付いたときには皆さんに置いて行かれ、同人という言葉が大変重く感じました。
 自分も歳を重ね、後がないことを思い知らされ、もう一度勉強をし直そうという気持ちになりました。
 今まで何度も聞いていた言葉が自分には新しい感動となり、絵に対する気持や見方が変わってきました。
 今では楽しさばかりではなく苦しさも多いですが、仲間意識が高まり皆さんに助けられています。
 これからも青美会の仲間でありたいと思います。 これからもよろしくお願いいたします。

「はこ・はこ」(F20)

「私と青美会」芹澤 恒喜(洋画研究)

平井先生との出会いが「私と青美会」の始まりでした。
 昔、学生の頃、絵をかじっていましたが、それ以来筆は手にしていませんでした。
 1997年の春、まだ会社へ勤めながら写生をしたく思っていました。1人で写生をするには周りの目が気になるし、
 体裁も悪いので躊躇していました。何処かのグループに所属して行動すれば平気かなと・・・
 そんなとき、新聞の折込にNHKの文化教室の案内が有り「楽しい風景画」という月一回で日曜日の講座を見つ
 け取りて申込に行きました。その講座が平井先生で青い道の会(後の青美会)をサポートしていました。
 8回は2回展は様子見。2回展から出品しました。当時は稲沢の荻須記念美術館での開催でした。
 8回展から現在の東桜会館ギャラリーに会場を移して現在に至っています。8回展の開催から伊藤事務局長の許で書
 記を担当し、12回から事務局を担当しました。当時は同人も増えマニュアルなどがなく、手続き・準備・会場の予
 約など手探り状態で行き当たりばったりでした。会場の予約が他の団体とバッティングし交渉の末何とか予定通り
 開催に漕ぎ着けることもありました。マニュアルの必要性を感じ早速取掛り、打合せ・展覧会・懇親会の日程、会
 場の予約、各人への連絡、備品の用意等を明文化し14回の事務局に引き継ぐ事が出来ました。
 初めの頃の絵は「風景」次は「樹」をテーマに進み現在に至っています。そろそろ他のテーマを模索しています。

「樹」(F30)

「私と青美会」本荘 鎮夫(洋画研究)

青美会と私の関係は、平井先生と私の関係がいちばん大きいと思いますので、その関係を書きます。
 小学校以来、多くの恩師先生の御世話になり、今日の私があるのであり、感謝の念に耐えられません。
 退職後、第二の人生として(本当は第一の人生と思って居ますが)平井先生に習い始めてより18年、一生のうちで
 一番長く、死ぬまで恩師として、絵の事は勿論、人生のことまで多くを教わり、芸術家であられると同時に教育者
 として優れた恩師にして尊敬しております。何度教わっても、其の百分の一も守ることの出来ない劣等生ですが、
 死ぬまで描き続けるつもりで居ります。どうか宜しくご指導下さいませ。
 浄土宗の高層、権尾先生が「時は今、ところあしもそのことに、うちこむ命、永遠の御命」と歌われております。
 明日があると思わずやるのは「今でしょ」と日々努力するのが、いちばんだと思います。

「岩」(F40)

「第48回・桜和美術展」名古屋市博物館・3Fギャラリー 2017年4月19日(火)～4月24日(日)

●出品者→鈴木克利、長谷川光一、山口淑子、小島まこと

関連

展覧会情報

「青い道の会展2017」稲沢市荻須記念美術館・展示室A 2017年5月12日(金)・13日(土)・14日(日)

●出品者→宮地英紀、水巻久美子、井上美代子、吉田洋子、水谷賢一

「宮地英紀・30年の軌跡」展 稲沢市荻須記念美術館・展示室B 2017年5月12日(金)・13日(土)・14日(日)

●同人「宮地英紀」の過去から現在までの画業を振り返ります。(回顧展)

予告

「青美会同人展2017」愛知県美術館ギャラリーD室 2017年7月11日(火)～7月17日(月)

★第8号・2017年2月14日発行 編集：青美会事務所